

大地の恵み

blessing of the earth

「水土里キッズの わくわく探訪 in UGO」

vol.17
H28.3

— 土地改良施設巡り —

- 「2015語り部交流会inあきた」
- 第16回美しく豊かな農村づくり
写真コンクール
- 「水土里」の風で地域を応援
 - ・水土里の野菜倶楽部
 - ・あきた「旬野菜・花卉」展示プロジェクト





地球人会議とは？

「あきた 食料・環境・ふるさとを考える地球人会議」は安全な食料の確保のため、環境にやさしい社会の創造のため、そして緑豊かなふるさとを子供たちに引きつぐため、みんなで考え、みんなで発言し、行動する組織です。主に一般県民、特に児童・生徒に向けて積極的に活動を行っています。

地球人会議の活動内容

- ① シンポジウムやセミナー等の開催
- ② パンフレットや情報誌等の発行
- ③ アンケート調査などによる会員との意見交換
- ④ インターネット等を活用した会員との情報交換

(シンボルマークについて)



緑豊かな地球を守り、未来へ手渡したいという地球人会議の願いを象徴しています。
緑の地球をシンボリックに表し、芽生えた新芽は、会員一人一人の地球に対する優しい思いやりの心を表現しています。

平成27年度

地球人会議活動状況

① 会議等の開催

●平成27年度地球人会議運営委員会

- 内容：平成26年度事業報告及び収支決算の承認、平成27年度事業計画(案)及び収支予算(案)等の承認、意見交換
- 開催日：平成27年7月28日(火)
- 場 所：水土里ネット秋田・第1会議室(秋田市)
- 出席者：運営委員6名

② イベント(主催行事)等の開催

●「水土里キッズのわくわく探訪 in UGO」(19回目)

- 目的：子供たちや保護者に土地改良施設等の見学を通じて、農業水利施設の機能や農業用水の果たす役割について学習し、農業・農村の有する多面的機能の発揮やこれを支える水土里ネットについて理解の醸成を図ることを目的とする

- 開催日：平成27年9月5日(土)
- 場 所：羽後町、羽後町土地改良区管理施設他
- 参加者：47名(秋田市・羽後町)

●「2015語り部交流会inあきた」(後援)

- 内容：農業農村における「水のつながり」やそれを通じた「人のつながり」を地域創生の源の一つに位置付け、今後の農村振興や地域活性化に結びつけていくことを考えるきっかけとする
- 開催日：平成28年1月28日(木)
- 場 所：横手市生涯学習センター
- 参加者：300名

③ 会員への情報提供

- 県・水土里ネット等が関係する各種事業やイベントなどに関する情報提供

- 「大地の恵み」第17号の発行
- H27活動報告、各イベント開催等の内容を掲載(平成28年3月に配布)：1,000部

●インターネット等を活用した情報提供

- ホームページに「地球人会議」のコーナーを開設し、活動状況等を掲載
- <http://www.akita-nidori.net>
- 水土里ネット秋田



地球人会議 年表

- H11 設立：会員1,200名
フォーラム開催 (H22まで)
- H12 大地の恵み発行
(現在Vol.16まで)
- H16 わくわく探訪の開催
(土地連でH9〜開催)
- H17 「水と土現地見学会」との共催
- H23 語り部交流会などの共催・後援



水士里キッズの

木く木く探訪 inUGO

平成27年度
土地改良
施設巡り

探訪コース

スタート



開講式



旧長谷山邸



松倉ダム

ゴール



大久保堰



嶋田新田排水機場



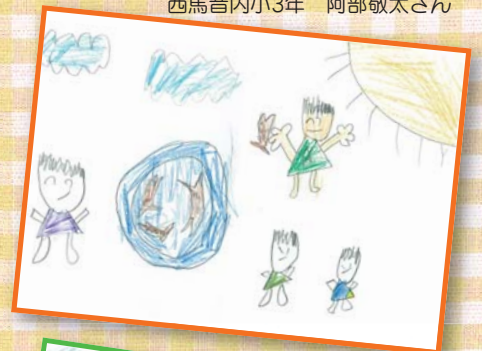
沢の子の杜わか杉

川尻小5年 加藤鈴菜さん



みんなが描いてくれた
イラスト

西馬音内小3年 阿部敬太さん



港北小5年 齋藤風花さん



中通小5年 川口珠侑さん



港北小5年 高橋照乃さん

9月5日、水士里キッズのわくわく探訪を開催。今年は秋田市及び羽後町の児童とスタッフ47名の参加。朝からお天気も良く、絶好の探訪日和となりました。

みんなでバスに乗り込み、開講式が行われる羽後町役場へと向かいます。役場では浦田副町長がお迎えと歓迎の挨拶をしてくれました。羽後町のご家族の方に見送られ、いざ探訪に出発!!



厚な外観と内部の梁を幾重にも積み重ねる「本小屋」の梁組、座敷の書院風座敷飾、細やかな組子細工など、贅を尽くしたこだわりの感じられる建物で、土蔵高樓は周囲に映える白壁と軸部の均整の取れた美しさが「長谷山の三階建」と言われて地域のシンボルとされ、この二つの建物が渡り廊下で連結されています。子ども達は隠れ家のように作りの建物の中を、珍しそうに眺めながら探検していました。

旧長谷山邸は、明治15年に建てられた建物です。この地方に多く見られる茅葺民家形式の中門造の様式で、側柱上端から腕木を出したせがいが造りの重

次に訪れた松倉ダムでは、県雄勝地域振興局農林部の佐藤課長から説明をしていただきました。羽後町(旧西馬音内町・元西村・新成村)の水不足を解消するため10年(昭和26年~35年)の歳月をかけて造られました。このダムには、約6万㎡の土が盛られており、東京ドーム容積

製のラビリンス工法で作られています。ラビリンス堰とは、洪水吐きがジグザグ形に折りたたまれた形の堰で、洪水吐きの長さを確保しながらコンパクトな施設になっています。

お昼に訪れた沢の子の杜わか杉では、地元の方達にも協力してもらい、大型の生け簀を作つてイワナの掴み取り体験を行うことができました。一人一匹以上を目標として、みんなでイワナに飛びかかりました。イワナが焼けるまでは、廃校を利用した施設なので付属の体育館で男女対抗ドッジボールをしました。普段は男女で遊ぶ機会がありません。最後に「楽しかった」「もっとやりたい」という声が多く聞こえてきました。焼きたてのイワナと、地元のお母さんたちの手作りおにぎりはおいしかったです。

午後には嶋田新田排水機場に行きました。ここでは、羽後町土地改良区の照井さんから説明を受けました。新町川と高尾田川の水位差を利用し排水を行っています。豪雨時は吐出水槽の水位を高尾田川の水位より高くする事で排水可能となっています。排水機場が水の流れにより違う動きをする事を聞き、児童たちは感心した様子で眺めていました。秋田テレビの取材も



入って、みんなで記念撮影。夕方、二ニュースでも放送されました。

最後に大久保堰に行き、国土交通省湯沢河川国道事務所伊藤専門官から説明を受けました。大久保堰は、日本初のSR合成起伏堰(ゴム製の袋の伸縮によりゲートを開け閉めする)として、平成17年に竣工しました。普段は見ることのできない操作室の中に入れてもらい、パソコンによる遠隔操作で外のカメラを動かし、操作室のモニターで堰の様子を見せてもらいました。小屋のような室内の壁は厚く、機械の騒音に対する防音対策もきつちりとしていました。

今年度のわくわく探訪では、昨年に引き続き参加してくれた児童が半数以上で、「来年は東北へ行きたい」「大曲が良い」など、逆に意見も沢山もらえま



した。来年6年生で最後の探訪になる女の子は「中学生も来られるようにしてほしい」と名残惜しそうな様子でした。

スタッフが一番嬉しかったのは「将来水士里ネットの人になろうかな」と言われたことです。この探訪を通して、水士里ネットという組織と、農業農村への興味・関心が少しでも芽生えるきっかけとなればと思います。

「水土里キッズのわくわく探訪UGO」に参加して

秋田市立中通小学校 五年 星川 未遙

私は、秋田市に住んでいて、羽後町には行ったことがなかったのですごく楽しみにしていました。学校の友達と一緒に知らないところに行くのは初めてだったのでとても楽しかったです。

旧長谷山邸では昔の道具やいろいろな物がありました。その中でも心に残っているのは電話です。電話は、見たことがなかったし、実際にさわって試した事がなかったので、試すことができてよかったです。他にもいろいろなところを見ました。楽しかったです。

松倉ダムに行った時はびっくりしました。ダムに行く機会があまりないので、高くて本当に自然のなかにあるんだなあ〜と思いました。ダムにはいろんな工夫がある事がわかりました。一般的な余水吐は形がまっすぐですが、松倉ダムの池はデコボコだったので、びっくりしました。

嶋田新田排水機場に行ったときは、実際に見る事ができたのでとてもうれしかったです。

昼は昼食を食べる前にイワナのつかみ取りをしました。魚を素手で取るのは、最初は魚が速くて全然つかまえられなかったけど、段々コツをつかんできて一匹とれました。二匹も取れてとてもうれしかったです。



魚はヌルヌルしていたので、びっくりしました。

この日はすごく楽しくて、いい思い出になりました。スタッフの皆さんもすごくやさしくしてくださったのでうれしかったです。

「水土里キッズのわくわくたんぼう」

秋田市立大住小学校 四年 船木 快斗

ぼくは、羽後町のいろいろな自然をめぐる「水土里キッズのわくわく探訪」に参加しました。心に残ったことは三つあります。

一つ目は旧長谷山邸で探検をしたことです。庭は虫がたくさんいてとても広々していました。中は三階まであり、一〜三階までいろいろな物がかざられたり、置かれたりしていました。どの部屋があつて探検すると、もつと見て回りたいと思われるほどおもしろくて、楽しい所でした。

二つ目はイワナのつかみ取り体験をしたことです。最初は全然とれなかったけど、やり続けるるとだんだんコツがつかめてきて最終的には四匹もとれました。つかまえたイワナはみんな塩焼きにして食べました。とてもおいしくて三本ぐらい食べられそうでした。

三つ目は松倉ダムです。ダムには重力式ダムや、アーチ式ダム、ロックフィルダムなど、いろいろな種類のダムがあります。松倉ダムは東京ドームよりこんなに小さいのに、東京ドーム面積の三十六・四倍の山野からの水を集め、一秒間に最大三十四・五万の水を放流すると聞いたときはとてもびっくりしました。ぼくはそのときに初めてダムから水が

放流されている様子を見たので、「滝のようないきおいで流れているなあ〜」と思い、その迫力に驚かされました。この体験を通して、僕は水の大切さをあらためて感じました。水は私たち人間だけでなく、世の中のあらゆる生き物や、植物にとって、とてもなくてはならないものだと思います。これからもっと水を大切に使うていかなければ行けないとすごく勉強になりました。



2015 語り部交流会 in あきた

農業農村の『水のつながり』は『人のつながり』

1月28日、横手市平鹿生涯学習センターで「2015語り部交流会inあきた」が開催され、約300名が訪れました。現在の平鹿地区にあるダムやため池・頭首工などの基幹的農業水利施設は、水不足の苦難を克服するために作り出されてきた歴史とその施設と用水を守り継承してきた人々の足跡によるもの、森から里に至るまでの「水のつながり」を継承していくことの大切さを再確認し、現在に至る軌跡を知るきっかけとして開催されました。

はじめに主催者代表として、秋田県土地改良事業団体連合会平鹿支部の柴田康二郎支部長が「横手の地でこのようなイベントを開催できて喜ばしい。毎年、語り部交流会を通じて菅江真澄のことをいきいきと伝えてくれる菅原先生にも感謝」と、自身の故郷での交流会の開催を歓迎し、基調講演では「水で結ばれた水系社会〜山城堰に学ぶ〜」と題して、あきた森づくりサポーターセンターの菅原徳蔵所長と、3名の地域の方々が事例発表を行いました。後に開催された「パネルディスカッション」では、徳島から横手市大森町に来た平元美紗緒さんをコーディネーターに迎え、オブザーバーとして参加された県農林水産部の瀧川拓哉参事も、「農家数の減少、非農家の割合増大、農地集積の進展といった変化に対応して適切に農業水利を保全・継承していく必要がある」として、「人のつながり」に着目した施策などについてもお話しされました。

最後に、秋田県平鹿地域振興局農林部の長沢淳良部長が「農業農村における『水のつながり』やそれらを通じた『人のつながり』を地域創生の源の一つと位置づけ、今後の農村振興や地域生活の活性化に結びつけていきたい」と会を閉じました。



基調講演

「水で結ばれた水系社会 〜山城堰に学ぶ〜」



あきた森づくりサポーターセンター所長
菅原 徳蔵氏

山城水系の田んぼは、川が氾濫すれば何日も水浸して胸までつかる湿地であったため、昔から「草止め」という方法で川止めを行い、受け継いできた歴史があります。悲願であった治水から400年がたった今でも毎年春に「堰根祭」を行い、雄物川の恵みに感謝してクキサッコを山城堰に放流し、水に対する畏敬と感謝を表しています。「水」を通してこのように古くから固い絆が出来る地域は珍しく、今後も水への感謝を忘れず行事等を通じていっと思いたいと思います。



「山城堰と堰根祭」



山城水系土地改良区

太田 剛史氏

山城堰で行われてきた雄物川周辺住民による取水行為「草止め」は、水路の老朽化などの理由から昭和27年に県営かんがい排水事業としてコンクリート製の頭首工及び幹線用水路の改修工事に着手し、姿を消しました。しかし、『水のありがたさを後世に伝えよう』という思いから、毎年春に『堰根祭』を開催し、川の恵みであるクギザッコ（ウグイ）を関係者全員でありがたく頂いています。土地改良区の仕事も、今回のテーマである『人』と『水』を繋ぐ役割。今後この地で、人と水を繋ぎながら共に歩いていきたいです。

「森と水と子ども」



横手市立黒川小学校校長

酒井 浩氏

（森林インストラクター）

現在の子供たちは「自然欠乏症」に陥っていることが多く、自然体験を通して頭も心も体も鍛えて「生きる力」を育んでいこうと内と外からアプローチを重ねています。その中で私が大事にしてきたことは、五感を磨くことです。四季の変化に敏感になることは日本人としてなおさら大切にしていきたいと思っています。また、自身が自然の姿に感動できる感性を持ち続けることも大事にしています。大人になってもそういった気持ちを忘れないように子供達を育てていきたいです。

「地域の水の保全・酒造り」



浅舞酒造(株) 杜氏

森谷 康市氏

（平鹿町土地改良区理事）

以前息子と夏休みの自由研究で「水源を探す旅」に出て、一般に言う川が「目に見える川」だとすると、もう一つは「目に見えない川」、地下を流れる大昔の川があるということが分かりました。そのときから横手盆地で育てた酒米と、奥羽山脈に降る雪と雨の伏流水と「琵琶沼寒泉」だけで「天の戸」を醸したいという思いが芽生え、2011年、蔵から半径5キロの酒米と湧き水での「全量純米酒」宣言をしました。他にも「稲の花見」を開催しており、全国各地からお客さんが来てくれ、ふるさとの良さをよそから来た人に教えられるています。

「山城堰」

藩政期に常陸の国から秋田へ移封となった佐竹家の分家、佐竹東家が開削した用水路。知行地の一つであった大森から大川西根までの雄物川西岸から出羽丘陵に挟まれた不毛の原野に雄物川の水を引き入れることで広大な田地を開拓するべく、1619年に藩より「指紙開」と称する開発許可を得て以来、4代にわたって用水路の開削を行い、完成まで58年の歳月が費やされました。佐竹東家の受領名が山城守であったことから、その名をとって「山城堰」と呼ばれるようになり、現在も17km以上に及ぶ水路によっておよそ830haの水田を潤しています。

開削当初は「草止め」と称する土俵・木杭・柴などを使った雄物川の一部締め切りによって取水していましたが、開発により灌漑面積が増えるにつれて、1664年には300メートルにも及ぶ川幅全部を締め切るようになり、使用された材料は土俵 3万俵、杭 2万本、柴 2千束を主としていた記録が残っているそう。



第16回

美しく豊かな農村づくり 写真コンクール



入賞作品、16点が決定!!

(水土里ネット秋田主催)

2月3日、「第16回美しく豊かな農村づくり写真コンクール」の審査委員会が水土里ネット秋田で行われました。日本の農業生産、農村の生活、文化、環境など幅広くとらえた農業農村風景の写真を募集し、県内外から集まった作品の中から、入賞作品16点が選ばれました。ここでは、2作品について講評を紹介します。

ベスト あきた賞



「体験学習」九嶋 祐／大館市

【高貝審査委員長からの講評】

様々な世代が一つの田んぼに集まって一緒に作業している風景が良い。指導者として立つ大人が、地域を担う活力である子供たちを見守りながら笑顔で教えている光景は、今後も続いてほしい理想の姿だ。

(撮影：北秋田市綴子)

あきたに来てけれ賞

「棚田に咲く」高橋 康雄／山形県大蔵村

【高貝審査委員長からの講評】

手前の耕作放棄地に植えてあるワイルドフラワーの赤やピンクの色鮮やかさが引き立っている。そこから中央に棚田の緑と、その奥に山々の深緑が広がっており、空の青との絶妙なコントラストを演出している。

(撮影：山形県最上郡大蔵村)



ナイスアグリカルチャー賞



「田んぼに出勤」大場 建夫／由利本荘市
(撮影：にかほ市)



「行くぞー」吉田 慶嗣／秋田市
(撮影：大仙市)



「今年は豊作だよ」奈良 茂雄／潟上市
(撮影：男鹿市)

棚田オーナー賞



「いざ出陣」佐藤 義敏／秋田市
(撮影：由利本荘市)



「共同作業」鈴木 武男／秋田市
(撮影：横手市)



「働く農夫」五十嵐 清光／横手市



「これは木ですか？」井波 栄子／潟上市



「イナゴ追う」石郷岡 富男／秋田市



「花摘みの日」原田 司／秋田市



「山里に春が来たりて…」岡田 竜史／群馬県
(撮影：仙北市)



「あーっ、あぶない」渡邊 五郎／北秋田市



「ナイスキャッチ？」中村 章／横手市



「つり橋でジャンプ」松橋 加代子／秋田市
(撮影：仙北市)



「代掻きと八重桜」渡部 純子／八郎潟町

風で地域を応援

松橋 久光

イメージしか連想されませんでした。このような中、当会の第三期中長期計画が策定（H27～）自主的な研修強化、地域づくりの幅広い知識の習得や人脈づくり等が掲げられました。だけでなく、より軽やかなイメージへ近づけていきます。



水土里の野菜倶楽部

1. 取組の内容

昨年まで5年間にわたり、耕作放棄地対策として「あきた体験農園」を秋田市仁井田で開催していた経験を活かし、耕作放棄地の活用と、地元幼稚園や小学校などに幼年期から農業への関心を高めるための地域応援事業を展開。キーワードは「仁井田大根」などの「伝統野菜」。「伝統野菜」を、地元で育て食す喜びを、仁井田地区はもちろん秋田県全域で広まっていけばと積極的にメディアにも出演。新聞、テレビ、ラジオ、またネットニュースにまでも取り上げられた。この活動をメディアを通して地元の人を知り、「うちでもやりたい」という農家さんが増えて、伝統野菜が完全に復活することを望んでいます。

① 地域の伝統野菜の復活・特産化（仁井田大根、仁井田落、仁井田菜、さしぼろ）

● 栽培の普及・拡大（現在、保存エリアで伝承）のため、地域内への移植、増殖活動の他、野菜の歴史、特徴、伝統の調理法などをとりまとめ

● 地域の方と積極的にワークショップを開催

● 地域伝統野菜を用いた漬物講習会、食味会を通し農村地域の魅力の再発見

② 地域内学童と農業体験を実施（ジャガイモ・サツマイモの収穫、大根の種蒔き）

● 秋田市仁井田地区内の学童を対象とした農作業体験により農業への理解・関心度の向上にむけ、小学校近郊の耕作放棄地を体験農園として活用する

● 体験農園にて、播種・移植、雑草防除、収穫作業の体験

2. 期待される効果

③ 秋田市園芸センターとの協力・連携（大根の日干し、調理、漬物のパック詰め）

● 来園者及びセンター研修生に対して、伝統野菜への啓蒙・普及

● 伝統野菜を活用した新商品開発の研究を、地域農家等と振興センター共同で実施、また販売方法を研究する

● 伝統野菜・伝統食の復活・特産化により、地域の先人たちのあゆみを学べるほか、高齢者・父兄・学童との交流の促進

● 伝統野菜栽培の普及により、耕作放棄地等の農地転換

● 交流体験に参加することにより、一般住民・消費者ニーズを研究可能。また、六次産業化・交流事業へ移行

● 農作業体験により農業への理解・関心度が向上



「水・土・里」の

「水土里ネット」イメージの一新

事業調整センター長

従来より、「水土里ネット」というと、「土地改良事業を推進するお堅いところ」、というイメージで、その中で「強固な経営基盤の構築には人材育成・活用の強化が必要」、という認識から、事業調整センターでは、下記の事業を通して、「水土里ネット」の名称を地域へ浸透させる

あきた「旬野菜・花卉」展示プロジェクト

地域に根ざした新たな地域活性化や地域を元気にするためのイベントとして、普段は捨てられてしまふような出来損ないの野菜や、農家にたくさんある稲藁を使って、展示活動を行うことを実行。地域資源の発掘及びPRのために行うイベントとして県から助成を受けて、昨年度の「農の生け花」に続いて実施しています。

1. 事業内容

① エリアなかいち(秋田市中心地区)で、季節感たっぷり、野菜・山野草、花卉農家が栽培した「旬の花」等を展示し、県内外の来訪者に季節感・ガラン秋田を実感してもらおうとともに、自然と上手に共存しながら維持してきた農業・農村の魅力情報を発信し、県内文化の醸成を図る

② 展示者(職員会会員、賛助会員(花卉農家))のモチベーションをアップと展示を契機に、人と人との出会い「ふれあい」「助け合い」を合い言葉に、みんなで創ることにより、野菜・花卉等を生ける楽しみ、見る楽しみを実感してもらい、地域の活性化の気運の盛り上げを目指す

2. 取組の内容

① 「水土里ネット」職員会の各支部ごとに、「旬野菜・花卉」及び古農具等を展示

● 稲穂、仁井田大根のはさがけ(長さ4m×3段)10月～11月

● 箸草(どんぶり)、松館しほり大根、ねぎ

● とつみ、足踏み脱穀機、箱ぞり等の古農具

② 来訪者への説明・質問及びコミュニケーション

● 展示野菜、古農具等

● 各(支部)地域の話題

● 「水土里ネット」の業務概要

3. 職員への効果、来訪者からの意見等

① 「水土里ネット」職員としての自覚

● 「水土里ネット秋田」と「各土地改良区職員」との交流

● 初めて、土地改良会館に入った(会長室も)

● 展示プロジェクト準備での地域農業関係団体との交渉(説明)の難しさを理解した

● 「野菜、花卉等」のオブジェ(農の生け花)ってすごい、大変身(びっくろ)

● 身近な野菜等 知らないものがたくさんあった

● 展示プロジェクトは、今まで他のイベントのサブとして行われていたが、それ自体を目的として行うのははじめて

● 説明(売り込み)のポイントが、だんだんわかったような気がする

② 来訪者からのメッセージ

● 「土地連」も、変わってきたな

● 定期的にやった方が良いのでは?

● 出来れば、売ってもらいたい

● 「野菜、花卉等」のオブジェ(農の生け花)ってすごい、大変身にびっくろ

● こんな野菜見たことない? スーパーとは別もの?

● 私たち(消費者)向けの、イベントもほしい

● 開催日時をもっと早く教えてほしい



の組織が統合します



土地改良事業と広報活動

土地改良事業とは

農業の生産性向上や農業構造の改善を目的とした、農用地や農業用水路、農道などの農業生産基盤の整備を行うものであり、個人資産である農地の価値向上が図られるという観点から、農家の為の事業と思われるがちです。多くの税金が投入されるという観点から公共性の強い事業でもあります。

土地改良事業には受益者(農家)負担が伴いますが、米価の情勢変化(土地改良事業は受益の範囲で負担)、農業農村の持つ多面的機能等から公的負担(補助率)が大きくなっています。

農家負担の軽減(国民の理解)

平成11年

農業基本法から**食料・農業・農村基本法**へ
目的に農村の振興、多面的機能の発揮が新たに登場
土地改良事業の必要性も「食と農」の観点から

県民

必要性を理解頂く県民活動
地球人会議を設立(土地連)

平成13年

食料・農業・農村基本法の目的に合わせ土地改良法を
一部改正し、**土地改良区**の**新たな役割**や土地改良に
対する国民の理解を求める地域運動を展開

地域

「水土里ネット」
21世紀創造運動(土地改良区)

農村地域の混住化が進む中、特に非農家を含めた地域住民の理解なくしては、土地改良事業の円滑な実施が困難な状況となっています。農業農村において付加価値的に果たしている土地改良区の役割、土地改良事業の持つ多面的機能の発揮について、地球人会議、21世紀創造運動を通じた地域活動、学校との連携、広報活動によって**広く理解を求める活動は共通**しています。

今後の活動方針

それぞれの地域活動が**マンネリ化の傾向**にあつたり、**土地改良区**の**統合整備**に伴い地域活動が見過ごされる恐れが出てきています。そこで、対象を明確にした広報のあり方や、地域・県民活動の展開について検討する機関の重要性を感じています。また、平成27年度から法制化された日本型直接支払制度(多面的支払交付金制度など)の活動組織との連携を含めた広報活動も必要になってきます。農業生産基盤や**農業農村の持つ多面的機能の重要性**を理解していただく地域活動を通じ、「**農業・農村整備事業に対する国民的理解**」という目標を達成するため、新たな組織を発足させ、より効果的な広報活動を目指していきます。



地球人会議 & 21世紀創造運動

2つ

設置イメージ

現行

2組織の活動において「広報活動等により、広く一般に農業・農村整備事業の理解を求めること」は共通事項

県民 地球人会議

- H11 設立…会員1,200名
フォーラム開催(H22まで)
- H12～ 大地の恵み発行(現在『vol.16』まで)
- H16～ わくわく探訪の開催(土地連でH9～開催)
- H17～ 水と土現地見学会
語り部交流会などの共催・後援
- H26 会員アンケートで会員が55名に
- H27 役員改選

地域 21世紀創造運動

土地改良区主体の運動

- H13 全土連が提唱、愛称を募集
- H14 「水土里ネット」に。秋田県でも活動開始
- H15～ 全国表彰開始
- H16～ 秋田県表彰開始・各種支援(助成金等)
事例集「水土里ネットのふれあい」発行
(現在『H27年度版』まで)

H28～

2組織の事務局を一本化して、土地改良区と土地連がより活発に広報できる環境作りを行い、マンネリ化の防止・新たな土地改良のイメージの醸成を図る

土地改良区

一般県民

水土里ネット
秋田(事務局)

水土里の広報委員会

地球人会議

21世紀創造運動

各種研修会

行政

活動組織

企業

学校

今後のスケジュール

- H28.4 (仮)水土里の広報委員会について検討
- H28.5 地球人会議運営委員会にて主旨説明
- H28.6 わくわく探訪の開催(土地連主体)
- H29.3 「水土里の広報委員会」設置
- H29～ 始動開始

あなたも広報委員になってみませんか？

自薦、他薦は問いません。農業や土地改良に興味があり、一緒に秋田の農山村を良くしていこうという志のある方。毎年数回水土里ネット秋田で会議をし、イベント等を地域で行っていきましょう。任期はH29.4.1～H31.3.31です。

応募先

水土里ネット秋田 事業調整センター
秋田市高陽幸町3-37 TEL.018-888-2742